

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●ホープフルSはキラーアビリティが優勝

2021年12月28日(火)に行われたホープフルS(G I)ではキラーアビリティ(牡2歳/栗東・斉藤崇史厩舎)が優勝、重賞初挑戦でG I初制覇を果たしました。

●横山武史騎手がJRA通算300勝を達成

2021年12月28日(火)の5回中山9日・第12レースとして行われた立志Sではノルカソルカが1着となり、同馬に騎乗した横山武史騎手(美浦・鈴木伸尋厩舎)は、現役50人目となるJRA通算300勝(3273戦目)を達成しました。

●勝浦正樹騎手がJRA通算1万5000回騎乗を達成

2021年12月28日(火)の5回中山9日・第6レースでハイリミットカフェに騎乗した勝浦正樹騎手(美浦・フリー)は、史上16人目、現役12人目となるJRA通算1万5000回騎乗を達成しました。

●魚住謙心騎手と飛田愛斗騎手がJRA初勝利をあげる

2021年12月28日(火)の5回中山9日・第7レースではスウェアーが1着となり、同馬に騎乗した魚住謙心騎手(金沢・鋤田誠二厩舎)がJRA初騎乗で初勝利をあげました。同日の第9レースではマキキュリーセブンが1着となり、同馬に騎乗した飛田愛斗騎手(佐賀・三小田幸人厩舎)は、JRA 2戦目で初勝利をあげました。

●2021ヤングジョッキーズシリーズは佐賀の飛田愛斗騎手が優勝

2021年12月27日(月)には大井競馬場で、翌28日(火)には中山競馬場でヤングジョッキーズシリーズのファイナルラウンド計4レースが実施され、第2戦と第4戦で勝利した飛田愛斗騎手(佐賀)が計65ポイントを獲得、総合優勝を果たしました。

●2021年度JRAリーディングが決定

2021年12月28日(火)をもって同年の全日程が終了し、年間199勝をあげたクリストフルメール騎手(栗東・フリー)が5年連続5度目となるJRAリーディングジョッキーに輝きました。また中内田充正調教師(栗東)が年間54勝をあげ、初のJRAリーディングを獲得しています。

●嘉藤貴行騎手が引退

2021年12月31日(金)付で嘉藤貴行騎手(美浦・フリー/JRA通算5485戦157勝)が引退しました。同騎手は令和4年度新規調教師免許試験に合格、本年1月1日(祝・土)付で調教師免許が交付されています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●オメガパフュームが史上初の東京大賞典(大井)4連覇を達成

東京大賞典(G I、12月29日、大井、2000^円)は、中国から早めに追いつけた単勝1.8倍で断然人気のオメガパフューム(ミルコ・デムエロ騎手、牡・出走時6歳、父スウェプトオーヴァーボード)が、内から迫る3番人気のクリンチャーとの競り合いを半馬身差で制し、史上初の4連覇を達成しました。これは、ダートグレード競走全体でも初めての快挙です。ウェスタールンドが3着に入り、2番人気のミューチャリー(船橋)は4着、ロードプレスは5着、アナザートゥルースは6着、サンライズノヴァは8着、デルマルーヴルは9着に敗れています。

●東京大賞典及び当日の売上が地方競馬新記録を更新

東京大賞典の売上は、前年比114.5%の69億5320万8900円となり、前年の同競走で記録した地方競馬の1レースの売上レコードを更新。また、当日の12月29日の売上も前年比113.0%の104億4805万4290円と、地方競馬では初めて100億円を突破する新記録となりました。

●2021年地方競馬リーディングは打越勇児調教師、森泰斗騎手

2021年の地方競馬リーディングは、トレーナーが206勝で打越勇児調教師(高知)、ジョッキーは363勝の森泰斗騎手(船橋)でした。また、地方競馬リーディングサイアー(総合)は、7年連続でサウスヴィグラスとなっています。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1マリブS～フライトラインが11馬身半差の圧勝

昨年12月26日に米国カリフォルニア州のサンタアニタパーク競馬場で行われたG1マリブS(3歳、ダート1400^m)は、F.ブラ騎手が手綱を取ったフライトライン(牡、父タピット、J.サドラー厩舎)が少し出遅れ気味のスタートながらもハナを奪うと、直線で榮々と差を広げて11馬身半差で圧勝しました。フライトラインは昨年4月のデビュー戦(ダート1200^m)を13馬身 $\frac{1}{4}$ 差で圧勝すると、続く9月の2戦目(ダート1200^m)も12馬身 $\frac{3}{4}$ 差で大勝。デビューから3連勝でのG1初制覇となりました。

●G1ラブレアS～カリブソがG1初制覇

上記G1マリブSの2レース前に行われたG1ラブレアS(3歳牝、ダート1400^m)は、J.ヴェラスケス騎手が騎乗したカリブソ(父プロディーズコース、B.バファート厩舎)が3番手追走から直線で抜け出して4馬身 $\frac{1}{2}$ 差で優勝。G1初制覇を果たしました。カリブソは昨年1月のG2サンタインネスS(ダート1400^m)で重賞初制覇を果たしましたが、その後はスタート前にゲートに顔をぶつけるアクシデントもあって最下位12着に終わった昨年4月のG2エイトベルズSまで3連敗。ここはそれ以来約8か月ぶりのレースでした。